

Our Chalet

Helen Storrow Seminar 2012

'Young Women Leading for a Green Future'



青森県連盟第9団 石岡花織

◆ヘレンストロセミナー

【会 場】

アワシャレー（スイス アデルボーデン）

【日 程】

平成24年3月14日（水）～19日（月）

【目 的】

このセミナーは、世界連盟初のワールドセンター、アワシャレーの共同創始者であるヘレン・ストロー氏にちなみ開催されている。今回は「環境に優しい未来へ導く若い女性」をテーマに、実践的なリーダーシップ開発や、現在の環境問題について学び、自身がチェンジエージェントとして良い変化をもたらす指導者となる。
今回で第7回目の開催となりました。ヤングリーダーを対象にリーダーシップスキルの開発のために行われてる。

【参加国一覧】

・アフリカ地域4カ国

ケニア、タンザニア、ウガンダ、ザンビア

・ヨーロッパ地域13カ国

イギリス、ドイツ、スイス、アイルランド、ラトビア、フィンランド、オランダ、ポーランド、ギリシア、フランス、マルタ、スロベニア、ベラルーシ共和国

・アジア太平洋地域5カ国

日本、台湾、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール

・アラブ地域1カ国

レバノン

・西半球地域4カ国

アメリカ、カナダ、メキシコ、コスタリカ

世界から27カ国30名の18歳から25歳までのヤングリーダーが参加。



◆事前課題

- ①自国の環境問題また行っている環境プロジェクトの紹介ポスターの作成
- ②幼少時代と現在との身近な自然の変化における体験談の作成
- ③メールで添付されてきた適性検査テストを用いて自分の長所の分析

課題に対する自己の取り組み

- ①日本の穀物自給率問題のこと、東日本大震災、津波、原発のことをポスターにまとめて発表。
また、環境プロジェクトとしてガールスカウト日本連盟で取り組んでいるピースプロジェクト Greener × Greenerプロジェクトのことを紹介。
- ②課題とは少しずれ、やはり1年前に発生した東日本大震災について、世界の多くの人に知ってもらいたいと思い、東日本大震災のことを題材に体験談を作成。東日本大震災が発生し日本で実際どのようなことが起こったのか。メディアで取り上げられていた被災地の状況だけではなく、物の買い占め、停電、節電、復興支援のことなど被災していない地域で起こったことも知ってもらえるよう作成した。

◆日本からアワシャレーまでの移動

成田国際空港からフランスのシャルル・ド・ゴール国際空港経由で
スイス、チューリッヒにあるスイス国際空港に。(飛行時間:約16時間半)
空港からはCFFという地下鉄に乗り、ベルンまで行き、ベルンでフーティガン行きの
電車に乗り換え、終着駅であるフーティガンで下車。
そこからAFAというバスに20分ほど乗り、アワシャレーから一番近いバス停である
オーウェーというところで下車。
また、そこからアワシャレーのバスで約5分アワシャレーにようやく到着。

全体の移動時間:約21時間【ロスタイムあり】

アワシャレーへ行く方々へアドバイス

スイスの駅は日本の駅と異なり、改札がありません。
しかし、切符を買わずに電車に乗ってしまうと犯罪です。
必ず、切符を買ってから乗りましょう。
また、案内表示板と電車のプラットフォームが異なる場合があります。
案内表示板に惑わされず、どこ行きの電車かきちんと確認してから乗車してください。



◆スイス

ヨーロッパ中央部に位置する内陸国であり、日本の九州より少し大きいぐらいの小さな国

・隣国

オーストリア、リヒテンシュタイン、イタリア、フランス、ドイツ

・EU非加盟国

・通貨

スイスフラン

・言語

スイスドイツ語、ドイツ語
フランス語、イタリア語

・時差

8時間(サマータイム 7時間)

・首都

ベルン



◆アデルボーデン

・カントン

ベルン州

・郡

フルティゲン＝ニーダーシメンタル郡

・人口

3,563人

・言語

スイスドイツ語、ドイツ語
フランス語、イタリア語

・面積

88.19 km²

・標高

1,350 m



アデルボーデンの市章

Our Chalet
Helen Storrow Seminar 2012
'Young Women Leading for a Greener Future'



Our Chalet, Switzerland
 World Association
 of Girl Guides
 and Girl Scouts

TUESDAY 13 March	WEDNESDAY 14 March	THURSDAY 15 March	FRIDAY 16 March	SATURDAY 17 March	SUNDAY 18 March	MONDAY 19 March	TUESDAY 20 March	
Arrivals	Launching Operation Greener Future	Knowing Myself	Learn About the Environment	Lead and Commit on Environmental Issues	Building Expertise & Making a Contribution to a Greener Future	Taking Action for a Greener Future		
BREAKFAST								
REFLECTIONS								
PATROL TIME								
Opening Ceremony								
								Departures
Orientation and Launching the Programme Theme S1 Introduction to WAGGGS and WILDIP Expectations and Working Together		Understanding Leadership S6 Leadership Theories and Practice	S10 A Deeper Look at Some of WAGGGS Resources relating to the Environment	Leading Others S12 Teams and Working in a Team	S16 Introducing Advocacy & WAGGGS and Advocacy	S19 Goal Setting & Priorities		
TEA BREAK								
S2 Preparing for a Greener Future		S7 Understanding Leadership	UNFCCC, COPs & Rio+20	S13 Living Teams	S17 Workshops Campaign Planning Influencing People & Lobbying Communication Skills Working with Media	S20 Development of Action Plans and Partnerships & involving the Association		
Possible Link with Sangam								
LUNCH								
SHOP								
S3 Me as a Leader Personal Development		S8 Values, Beliefs and Leadership in WAGGGS	Keynote Speaker: Margot Hill Landolt	S14 Leading Others Conflict Transformation	S18 Coaching Clinic Introducing the Project Planning	Action Plans		
AFTERNOON TEA								
S4 Me as a World Citizen Environmental Challenges GAT and WAGGGS Project Overview		S9 Value of Biodiversity (Variety of Life on Earth)	S11 Stories from the Past about the Environment	Leadership & Changing Environment S15 Change Management 'Story of Stuff'	Coaching Clinic Continued	Evaluation		
REFLECTION TIME								
DINNER								
Icebreakers & Our Chalet Tour	S5 Environmental Challenges Gallery Film 'Taking Root'	International Night	Film 'Erin Brockovich' or 'An Inconvenient Truth'	Free Night or Campfire	Swiss Night	Closing Ceremony		

1日目

◆WLDPについて

WAGGGS Leadership Development Programmeの略（以下WLDPと省略）

リーダーシップ開発の戦略の一環として開発されたWAGGGSの独自のプログラムである。WLDPはWAGGGSの100年続く、少女と女性に対するリーダーシップ教育の経験を生かし、最新の理念と実践を取り入れ作成されたものであり、地域レベル、国家レベル、世界レベル、WAGGGSレベル、あらゆるレベルに対応できる人材育成のため開発された。



WLDPは独自の構造を持つ、国際的な指導者を育成するプログラムである。
100年の経験を経て、WAGGGSが培った4つの強み（下記）

- ①やくそくとおきてを通しての価値観の共有
- ②体験活動を主体とした、型にとらわれないノンフォーマル教育法
- ③世界各国に連盟を持つことでの異文化理解、異文化交流
- ④あらゆる世代の会員のもつことでの世代間のつながりまた世代間での共有

これらを基本に構築された。

そしてWLDPは世界レベルのセミナーで、トレーニングを受けたトレーナーから、各国から参加したリーダーに伝えられ世界へ発信されていく。

WLDPでは

- ・ 自己開発
- ・ リーダーシップ理解
- ・ チームを率いる
- ・ 管理能力
- ・ コミュニケーションスキル
- ・ アドボカシー
- ・ 多様性
- ・ 目標設定

これら8つの要素について学び、実際にリーダーシップをとる経験をすることで、段階的により効率的にリーダーシップについて学ぶことを可能にする。セミナーに参加した参加者たちは自国に戻り、活動を通して、同世代、または後輩スカウトたちに国際的な経験を共有し、リーダーシップを発揮することで、彼女らの意欲を高める。また、既存のリーダーシップ能力や知識の核となり、所属加盟連盟の更なる成長と発展に貢献する。

つまりWLDPとは、

WAGGGSの100年というリーダーシップ経験を通して培った4つの強みを基盤に作られた、あらゆるレベルに対応できるリーダー育成プログラムのことである。

◆Me as a leader リーダーとしての私

このセクションでは、これまでのリーダーとしての自分の振り返りをした。リーダーシップを発揮できる場面について考え、その場面、場面でどのような人々からサポートをしてもらうことができるか。現在、自分がリーダーとして活動しているコミュニティーを取り巻く環境について再確認した。自分が思い描くリーダー像とはどんな人物か。パトロールで共有しまとめ、その後全員で共有した。また、リーダーとして行動する際に注意すべきところなど、過去の経験からの得た課題をセミナー中の

- ①おのおのが改善すべき自己開発課題
- ②パトロールで共有した問題を改善するパトロール課題
- ③セミナー参加者全員が改善すべき全体課題

以上、3つに課題を分けて、それぞれ付箋に書き出し、ポスターに貼り出した。これら付箋に書かれた課題は他の人の課題であっても、自分の課題として、セミナー中、みんなで課題を意識しながら活動に取り組むことになった。

- ①私の自己開発課題は
 - 積極的に発言をする
 - リーダーとしての自覚を高める
- ②パトロール課題
 - パートナーシップを築く
 - たくさんのアイデアを共有する
- ③全体に期待すること
 - 一人ひとりがみんなのロールモデルになること

ポスターに張り出すことで、他のメンバーはどのような課題、問題意識を持ってこのセミナーに参加しているのかを知ることができた。

これらの課題を、参加者たちは自分の課題ではないものでもセミナー中にクリアできたと思ったものは、隣の白紙のポスターに移すことにした。

こうすることにより、1日1日、目で成長を確認することができた。

◆1日目感想

まず、アワシャレーまで到着するまでに改めて制服、チーフの大切さを実感した。

チューリッヒ空港からアワシャレーまで向かう途中、ドイツ語表記の看板しかないため案の定、私は駅で迷った。取り合えず“セントラル～駅”と聞こえ、「セントラル＝中央だ！きっと大きいはず」と思い、取りあえずその駅で降りてみた。

予想は当たりそこにはきちんと案内窓口があり丁寧に乗換を案内してくれた。

しかし、次の乗り換え駅にて、案内表示板のプラットホームにて電車が来るのを待っていると・・・電車が来ない...時間になっても電車が来ない...時間が過ぎても電車が来ない...周りを見渡すと隣のプラットホームに女の子2人組がいた。よく見ると、チーフをしている。チーフのお陰で、私はアイルランドから来た2人合流することができたのだ。私も彼女らもお互い制服を着用していたため、一瞬でお互いにガールスカウトであると認識することができた。ブラウニーの時から、「移動も必ず制服です。」とリーダーから口酸っぱく言われていたことの大切さを改めて実感した。

2人と合流して無事にアデルボーデンに到着することができた。

アデルボーデンは思っていたよりも寒くなく、半そででも大丈夫だった。

(※私は青森出身なので寒いのは得意)

アワシャレーから一番近いバス停にピックアップしてもらった予定だったが、約束の時間を大幅に過ぎていたため、歩いて向かわなければいけないと3人で覚悟していた。

しかし、ファシリテーター達は30分に1回バス停に誰か着いていないか確認しに来てくれた。

今後の参加者の方へ

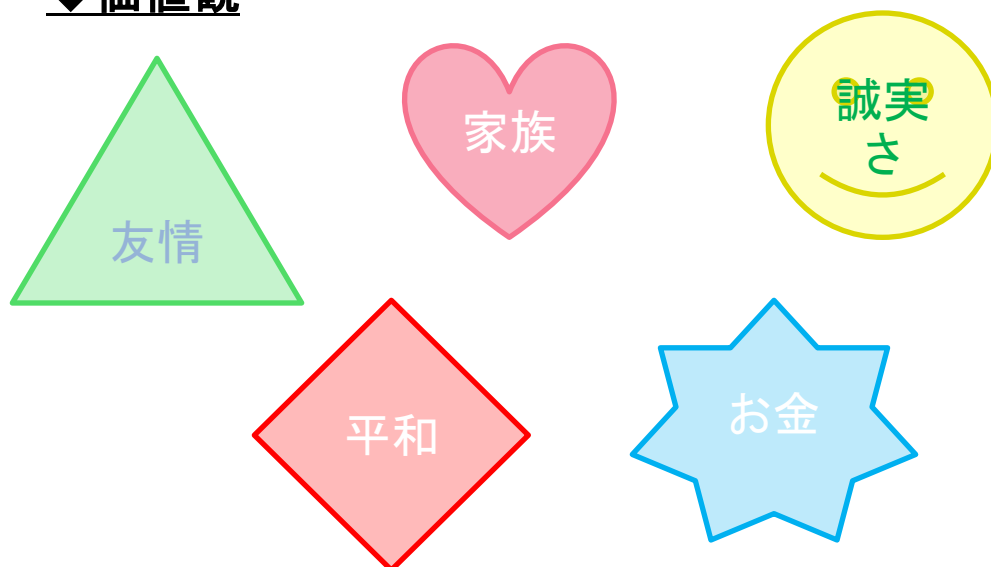
きっと、アワシャレーからあなたもバス停の到着時刻を申告するよう言われるでしょう。また、もし約束時間に現れなかったら歩いて向かってくださいとも言われると思います。正直、あの距離を雪道の中、歩いて向かうのは少し辛いと思います。バス停で待っていれば、きっと迎えが来るのでバス停で待っていることをお勧めします。

セミナーは、思っていたよりも参加者人数が少なかった。人数が少ない分、偏らずに色々な人と話すことができるため、名前をすぐ覚えることができた。

1日目からWLDPIについての説明があり、頭がまだ英語に切り替えられてない分少し辛かった。ファシリテーター達がとてもパワフルで明るくて素敵な人ばかりだった。アイスブレイキングなどがとてもユニークで面白かった。

2日目

◆価値観



2日目は価値観について学んだ。

人には

- ・友情
- ・家族
- ・誠実さ
- ・お金
- ・平和

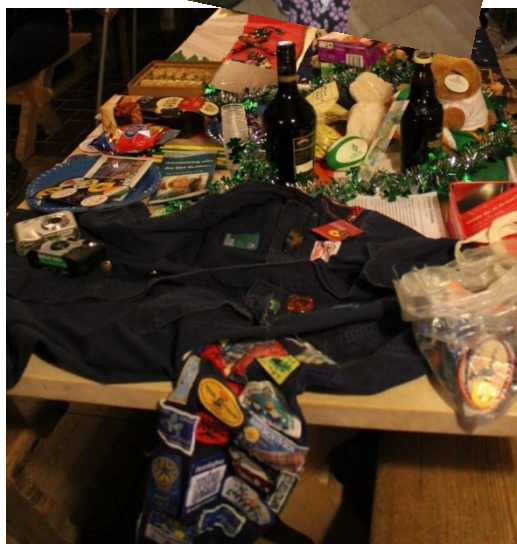
など人生において守りたいもの大切にしたいものがある。それらは人々の価値観となり、日常生活や集団行動において彼らの信念として行動に大きく表れる。今回のセッションでは、人生においての「信念」や「考え」になりそうな言葉が書いてあるカードの中から5つだけ最も自分が人生において譲れないものを選んだ。そのカードをランダムに人と交換した。すると最初に自分が選んだ言葉とは全く違うものになってしまった人もいれば、似たような言葉が集まった人もいた。同世代で同じようなモチベーションをもってこのセミナーに参加した仲間の中でも価値観の違いが存在することが明らかになった。リーダーとして、スカウトをサポートする上で彼女たちの価値観を深く理解し、指導者の価値観を押し付けるのではなく、根っことなる価値観から木が育ち、葉を付け、実がなるようなサポートが最も重要だということを学んだ。

◆インターナショナルナイト

参加国27カ国、民族衣装を着ての各ブースで自国の食べ物や民芸品などを並べ、各国の文化交流をした。また、この夜に参加前に出されていた課題の自国の環境プロジェクトについてまとめたポスターの発表もした。

日本のブースでは、浴衣を着て、ポストカードや日本のお菓子などをつかって日本の紹介をした。このとき、ワッペンを大量に持って行ったので、色んな国のワッペンやバッジと交換することができた。

いろんな国の歌やダンスを覚えることができ、とても楽しかった。



◆2日目感想

価値観について学ぶのは個人的にすごく興味深かった。価値観を意識する前は、自分も合わせるが他者も合わせればいい。“調和が大事なのだ”と勝手に思っていた。確かに調和も大切なことであるが、協調性ばかりを気にしていたら“自己”を失ってしまうこともあると思った。“自分という人間はどういう人であるのか”自己を見つめなおすことにも繋がった。また、スカウト活動にも大きく価値観の尊重が大切になってくることも理解できた。協調性を持ちつつ、その与えられたフィールドでどのように己の能力を最大限に活用できるかがもっとも大事な能力であり、スカウトも社会に出る上で、もっとも必要となってくるものであると思うからである。私は、幼い頃からバスケットボールをしていた経験を通して、かなりチームワークばかりを重視してきた傾向がある。そのため、ガールスカウト活動でリーダーをやっていると、作業に遅れている子がいれば、つい手を差し伸べてしまう。しかし、彼らがどんな意識を持って、その作業をしているのかをもっとよく考え見守ることができる“待てるリーダー”にならなければいけないのだと思った。

インターナショナルナイトでは、色んな国のお菓子を食えることができておもしろかった。オランダの参加者が世界一まずいと言われているグミを持ってきていて、試したところ、驚愕するほどのまずさだった。

また、コスタリカの参加者がテキーラを持ってきていた。コスタリカの人はパーティーが大好きという噂はやはり本当だったのだと思った。

私は、浴衣着て、参加したのだが、イギリスやヨーロッパのいくつかの国々の参加者たちは民族衣装がないから、日本みたいにそのような目で日本人だとわかる民族衣装があるのがうらやましいと言われた。私はそれを聞いて、日本人で良かった！と改めて思った。また、スペースを取られたが、ゆかたを持ってきて良かったと思った。また、日本文化も他国とは決してかぶることのない独特の文化なので、みんなに紹介する時にどんなことを紹介すればいいか明確だったので、準備もしやすかった。世界に出て、改めて、日本人という自分が好きになった。

今後の参加者の方へ

浴衣はやはり持っていくべきです！ また、せんべいやおもちなど日本らしいお菓子だけでなく、ポッキーやハイチュウ、柿の種などが人気でした！ お勧めです。

私は、ポスターの他にポストカードなどを使って日本の紹介をしました。

またスワップのために、日本連盟のワッペンやピンを持って行きました。他の国の参加者もワッペンやピンを持って行っている人が多かったです。

3日目

◆Rio+20

3日目は環境について学んだ。

生物多様性の概要と、現在、生態系を脅かす環境問題について学んだ後にRio+20の紹介があった。

現在、生態系を脅かす環境問題

HIPPO

Habitat destruction (居住環境の破壊)

Invasive species (外来種)

Pollution (汚染)

human over **P**opulation (人口爆発)

Over harvesting (乱獲)

Rio+20について

(国連持続可能な開発会議)

2012年6月20日～22日までの3日間、リオデジャネイロ(ブラジル)において開催される「国連持続可能な開発会議(Rio+20)」について学んだ。

◆基調講演

マーゴット・ヒルさんによる生物多様性に関するお話を聞いた。彼女はスイスのベルン出身で過去にガールスカウト活動をしていた方である。大学では、生物科学を専攻し、現在気候変動のプロジェクトをしているそうだ。また、2012年3月に国連の環境プロジェクトのコンサルタントを務めた方である。

◆3日目感想

この日は、かなり難しい一日だった。あまり専門的な知識がないので、特に基調講演ではかなり専門的な話をされていたので、英語圏の参加者たちでさえ、よく理解できなかったそうだ。しかし、マーゴット・ヒルさんのように同年代で、環境問題への取り組みを第一線で行っている人のお話が聞くことができ、とても逞しさを感じたと同時に今以上に興味を持って、世界市民の一員として常日頃、環境についてももっと敏感にならなくてはいけないと思った。

4日目

◆スノーアクティビティー

パトロールごとに毎回パトロールリーダーを決めて、リーダーへの課題とチームへの課題を与えられた。リーダー課題とチーム課題がマッチしうまく機能することで、チーム全体でスムーズに活動できるものや、お互いの課題が全く違い混乱してうまく機能しないものもあった。このような状況であってもリーダーは柔軟に対応し課題を解決しなければならない。リーダーの柔軟さやチームワークを試されるものだった。リーダーに任せるのではなくサポートするようにチーム全体で動き始めたりなど、リーダーの柔軟さやチームワーク柔軟さを試されるものだった。一つひとつのアクティビティを終えるごとにふりかえりをした。リーダーは率いる時に難しかった点、工夫した点、メンバーからはリーダーはどうだったか評価してもらったりした。それぞれ様々なタイプのリーダー像を体験し全体で感じたことを共有した。

パトロールリーダーへの課題の種類

- ・ポジティブな言葉を常にかけるリーダー
- ・一人ひとりの適性を判断し指示するリーダー
- ・なにも言わないリーダー
- ・効率よく指示するリーダー



◆イグルー作り

パトロールに分かれ、パトロールのメンバーに一人ひとりに違う役割が書かれたカードが配られた。一人は雪でブロックを作る役、一人はイグルーの中でブロックを積む係り、もう一人はポジティブな掛け声をかけてパトロールと全体のモチベーションを保つ係りなど一人ひとり様々な役割が与えられた。笛の合図で役割をローテーションしながら、一人ひとりがパトロールの中で責任を持ち役割を果たしながら全体のゴールであるイグルー完成のために頑張った。一通りカードに書かれた役割が回ったところでカードを無視し、それぞれが自分に合った役割に自然に就き、作業中に発見した技をみんなで共有したり、パトロール全体で声を掛け合いながら作業した。

◆4日目感想

一日中、外で体を動かしていたので、とてもリフレッシュができた。スノーアクティビティーはどのようなタイプのリーダーがチームにうまく働きかけることができるかのヒントをもらえた気がする。

イグルー作りでは、私たちのパトロールは一番時間は掛ったが、頑丈でとてもきれいな形のイグルーができた。他のパトロールのイグルーと比べた時に自分たちが頑張って作成したイグルーが一番形が良くて誇りに思った。このイグルー作り体験では、効果的なチームワークの在り方、また、同じ結果でも、時間をかけてより正確な結果を求めることの大切さを体験を通して学ぶことができた。

5日目

◆アドボカシー

世界連盟 使命

少女と若い女性が責任ある市民として、
自らの可能性を最大限に伸ばせるようにする

世界連盟 2020年のビジョン

すべての少女と若い女性の一人ひとりが尊ばれ、
世界を変えるために行動を起こす

WAGGGSのアドボカシーの定義

①We influence people

我々が人々に影響を与え

＝声に出したり、実践したり、教育することによって

②To take decision

意思決定をする

＝ex. 方針や規則を改正する

③That will improve our life and the lives of others

それが自分自身の生活や他人の生活を向上させるよう

＝我々が達成しようとしている結果である

WAGGGSのアドボカシーには声に出して言う・実践する・教育するということをすべて含む。

①声に出していうとは、少女、若い女性に影響を及ぼす問題について声に出して言い、世論を形作る人々に影響を与えることである。

②実践するとは、その影響を及ぼしている問題の根本的原因に対処するプロジェクトを実践することである。

③教育するとは、健康、平和といった分野において多くの少女や若い女性を教育することである。

これら3つすべてが備わり、初めてWAGGGSのアドボカシーとなる。

アドボカシーを達成する8つのsteps

アドボカシー活動は十分に計画をして取り組む必要がある。
計画する上での8つの段階について紹介したいと思う。

- ① なにを達成したいのか
自分のゴールは何なのか。最初に明確にする。
- ② 自分の状況を判断する
日常生活において、自分を取り巻くコミュニティの現状をリストアップする。
- ③ どのような資源が必要か
人材や資金など何が必要か書き出してみる。
- ④ なにを達成できるか
段階的に進行するためにサブゴール考える。
- ⑤ だれに影響を与える必要があるか
- ⑥ メッセージはなにか
- ⑦ どのようにしてメッセージを広めるか
- ⑧ どのような方法で達成できたかを判断するか

アドボカシー活動はこれら8つのステップを踏み、着実に取り組んでいく必要がある。

◆ワークショップ

コミュニケーションスキル、メディアと働くとは、人に影響をあたえるとは、キャンペーンプランニングと4つある選択肢の中から、私はキャンペーンプランニングを選んだ。なにかを活動する際に最も難しいはその活動にどうやって人々を巻き込んでいくかであると思ったからである。私たちは「エスキモーがアザラシを狩り過ぎて、アザラシの数が減ってきている。」という問題を、エスキモー、動物愛護団体、釣り人など役割に分かれ、それぞれの立場で解決方法考え、どのようにしたら政府に働きかけることができるかを話し合った。

- ① 自分を取り巻くコミュニティについて考える。
- ② 今の自分自身にはなにがあるか。また、なにが足りないか。
- ③ コミュニティーを見渡して、自分にはどのようなサポーターがいるか。
- ④ 目的は何なのか。そのプロジェクトからなにを得るのか。

上記の段階を踏みながら問題解決に取り組んだ。

ワークショップで取り上げた課題は少し大きい範囲での課題解決であったが、いざ自分がプロジェクトでアクションを起こすとき、このように段階的に自分のキャンペーンを明確化し、周りにシンプルに伝えること、そして、多様な角度から自分のキャンペーンを客観視し、様々な人々の気持ちを知ることが成功への最も近道であることがわかった。一人ひとり違う立場に立ってチェックリストにそって、段階を踏みながらお互いがお互いを納得させ、活動に巻き込んでいけるかについて考えた。

◆スイスナイト

アワシャレーに来ているボランティアスタッフも一緒にアワシャレー恒例のスイスナイトを行った。スイスの文化についてのクイズもあったが、クイズは本当に難しく、どうして他のチームは回答できているのかとても不安に思った。

すると...私の班以外にはアワシャレーのボランティアスタッフが最低1人チームメンバーに入っていることが発覚した。

私は一問も回答することができず、チームに貢献することができなかったが、みんなのお陰で3問回答することができて良かった。

また、参加者を巻き込んで、スイスの昔話の劇をした。

練習時間もあまりなかったのも、よくわからない劇だったが、ユーモアあふれる劇で面白かった。

また、ゲストにアルペンホルン奏者が来てくれ、演奏を披露してくれた。はじめて聞く生演奏でとても感激した。チョコフォンドゥーも堪能し、スイスを満喫できた夜だった。



◆5日目感想

3日目、4日目と全て吸収できているかとても不安になっていたが、アドボカシー活動の話になって、とても親近感を持てた。これらは、普段の集会などガールスカウト活動を通してスカウトのころからやってきたことだとアドボカシーについて再確認をした。また、ピースパックプロジェクトやピースプロジェクトGreener × Greenerプロジェクトの日本連盟のアドボカシー活動はWAGGGSのアドボカシーにそって実践されているではないか！とアドボカシーに対する日本連盟の意識の高さも実感した。物事を計画する上でこれら8つのステップはカールスカウト活動だけではなく、ゼミ活動などあらゆる場面で応用できるスキルであると思った。

ワークショップでは、1時間という短い時間であったにも関わらず、今日学んだアドボカシーの8つのステップを応用して、計画的に着実に問題解決を計画することができ、とても有意義な時間だった。

最終日

◆プロジェクト作成

食に関する環境プロジェクト

日本の食料自給率の課題もあって、なにか食べ物に関するプロジェクトにしたいと思い、ベジタリアンフードに目を付けた。

以下の問題意識より、私は、日本でもベジタリアンフードがもっと親しみが持てるようなプロジェクトを提案した。

問題意識

ベジタリアンとは、魚や肉など一切動物性食品をさけ、野菜中心の食事をする人々のことである。ベジタリアンという言葉は日本ではあまり親しみが無い言葉かもしれないが、外国に行くと、レストランはもちろんファストフード店でさえベジタリアンフードが用意されている。ベジタリアンには宗教、思想など様々な理由がある。

ベジタリアン食を選ぶことは環境や食糧問題にも深く関係している。家畜を育てて食用とするには、飼育するための穀物などの飼料や水がたくさん必要だ。輸送にもたくさんのエネルギーが使われている。人々が率先して直接食べることで、これらのエネルギーを節約することができる、極度の貧困をなくすことができるかもしれない。

◆Our Challenge

アワシャレーでは環境にとっても気を使っていて、すべてのごみを分別している。紙、水、生ごみ、ペットボトル、豚のえさなど日本ではここまで分別したことがないくらい細かく分別をしている。また、日本でも見られるように節水のためにトイレの流すボタンが2つに分かれていた。

セミナー中、水道・光熱費はとても高いという事を知り、全体で一人当たりの水の使用量を減らす挑戦をした。シャワー中、体を流さないときは水を止める。歯を磨いている時は水を止める。シャワーの回数を減らす。など一人ひとりが工夫し水を節約した。初日は一人当たり110ℓだった水使用量も、最終日には93.1ℓと16.9ℓもの水を節約することに成功した。

◆閉会式

閉会式はとても思い出に残る時間となった。みんなでろうそくを持ち、セミナー中の感想を一人ひとり述べた。その後に、ファシリテーターが作成してくれたDVDをみて、セミナーを振り返った。

楽しかった思い出がもう終わってしまうと思い、涙が止まらなかった。ファシリテーターの方は本当にパワフルで、こんな人になりたいと常に刺激を受けていた。今回のセミナーを通して、WLDPや価値観について学んだことも、リーダーシップスキルについて学んだことも糧となったが、なによりも素晴らしいファシリテーター達に指導を受け、肌でリーダーシップ像を感じる事ができたことがなにより私の財産だと思った。



◆全体の感想

約一週間という短い期間でしたが、四六時中英語に浸り、プロジェクトワークに四苦八苦し、くじけそうにもなった。しかし、必ず手を差し伸べてくれる最高の仲間に出会え、お互いの経験、考えを共有し、日本では体験できない体験をし得た思い出。アワシャレーで過ごした日々は毎日が挑戦で、新しい発見ばかりでした。同年代のリーダーと過ごす中で、自分を見つめなおし、いつまでもスカウト気分が抜けなかった私にとって、リーダーとしての自覚を強く意識できるきっかけにもなった。価値観の違いを押しつけるのでも、言い教えるのでもなく、一人ひとりの価値観の違いを理解し、尊重しながら、支えるように、気付かせるようにスカウトと一緒に活動していくことが大切なのだと、セミナーを通じて、ファシリテーターの方をみて気付かされた。今回、得たものを無駄にせず、一歩ずつ自分が思うリーダー像に近付けていけたらと思った。

